

# 今後の道路施策の論点について(たたき台)

## <道路施策の体系>

(道路分科会 建議中間とりまとめ(H24.6))

都市の成長を支える (経済成長)	<b>○基幹ネットワークの整備・活用</b> ・大都市等のネットワーク強化 (環状道路整備、ボトルネック箇所の集中対策) ・効率的な物流ネットワークの強化 ・ミッシングリンクの解消
	<b>○多様な利用者の共存</b> ・道路の適正利用 (渋滞、路上駐車、路上工事、大型車対策)
	<b>○交通結節点の充実・高度化</b> ・交通結節点の充実・高度化 ・公共交通利用の促進
持続可能な地域社会 地方創生	<b>○多様な利用者の共存(再掲)</b> ・道路空間の再配分
	<b>○道路の新たな価値の創造</b> ・オープン化・多機能化 ・道文化の再発見
事故対策	<b>○多様な利用者の共存(再掲)</b> ・歩行者・自転車の優先 ・交通事故削減 ・バリフリ、無電柱化、通学路の連携
防災	<b>○防災も含めた国土の信頼性確保</b>
老朽化	<b>○的確な維持管理・更新</b>
その他	<b>○低炭素社会への対応・道路空間のグリーン化</b>

## <当面想定される今後の方向性(例)>

### 【政府目標への貢献】

#### 生産性の向上

- ・民間投資を誘発し、ストック効果を高めるための方策は何か
- ・人口減少化の中、生産性を向上させ、効率性を高めるための方策は何か
- ・最適な国土形成、効率的な土地利用、地域経済の安定的成長を目指すための方策は何か

#### 社会全体での安全の確保

- ・もらい事故のような想定外の事態も含め、「安全」を確保するための方策は何か

#### 観光立国への貢献

- ・訪日外国人観光客3千万人時代を支えるために講じるべき道路施策は何か
- ・来訪者にとって魅力のある質の高い道路空間をどのように形成すれば良いか

など

### 【多様な主体による新たな連携】

#### 交通モード間の接続(モーダルコネクト)

- ・他の交通モードに対し、円滑な乗換機能や滞留機能をどのように確保すべきか

#### 官と民の新たな関係

- ・公共利用ではない部分をどこまで認めるか
- ・民間にインセンティブを与えつつ、どのように公的サービスの水準を保つか

#### 国と自治体の関係のあり方

- ・国として確保すべきサービス内容と、地方自治体に期待する内容を、どう整理するか  
 (自転車、歩行者空間の連続性確保、まちづくりとの関係など)

など

### 【技術革新への対応】

#### ICT・ビッグデータ等の活用

- ・利用者ニーズと道路の課題に、新技術をどのように活用していくか
- ・新たな産業として、いかに市場の確立につなげていくか

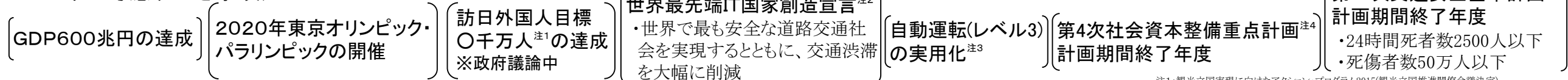
#### モビリティの進化への対応

- ・自動車の技術レベルの高まりや、シェアリングビジネスの進展など車の所有形態の変化に対し、インフラサイドからどのようにアプローチをするべきか

など

## <2020年をマイルストーンとした具体的プロジェクト及びロードマップの作成>

(2020年に考慮すべき事項)



注1:観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015(観光立国推進関係会議決定)  
 訪日外国人目標値については、「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」にて、議論中  
 注2:H27.6 閣議決定 注3:SIP自動走行システム研究開発計画(総合技術科学・イノベーション会議決定)  
 注4:H27.9 閣議決定 注5:H27年度中に閣議決定予定